

今は未来のためにある

一人一人が主人公 ～規律を守り、全力で挑戦し、高め合える仲間たち～

No.3 令和7年4月22日 発行者;校長 小倉 大二

【学校教育目標】

校訓「誠実・勤勉・礼儀」に則り、
思いやりの心を持ち、
新たな価値創造に挑戦する中で、
母校への誇りをはぐくむ生徒の育成

ひとりひとり しゅじんこう きりつ まも ぜんりよく ちょうせん たか なかま
「一人一人が主人公 ～規律を守り、全力で挑戦し、高め合える仲間たち～」

上の文言は、学校通信「今は未来のためにある」のサブタイトルです。この文言は、生徒会執行部が考えた、本年度の松ヶ江中学校のスローガンです。この1年間、このスローガンのもと、いろいろなことに積極的に取り組み、切磋琢磨していく中で、心も体も大きく成長してほしいと願っています。



いま みらい ねんご しあわせ
「今は未来のためにある」⇒「10年後の幸せを」

私自身、よく考えることがあります。それは、「教育とは何なのか?」ということです。教職に就き、長年、様々な子どもたちと関わる中で、確答とまで言えるかはわかりませんが、自信をもって言えることがあります。それは、教育とは「子どもたちの将来の幸せのために、子どもたちの可能性（資質・能力）を伸ばす意図的・計画的な営み」であるということです。

中学校は義務教育最後の3年間です。3年後には高校進学や就職の選択が待っています。さらに、その3年後には大学等への進学か就職かの選択が待っています。そして、実社会へと旅立ちます。それらの選択は子どもたちの人生の幸せにつながるべきものだと考えます。もちろん、人生100年時代と呼ばれる長い人生、途中の変更はききます。だとしても、18歳までの進路の選択は少なくとも10年後の25～30歳くらいまでの幸せにはつながると思っています。

よく「学校は小さな社会」と呼ばれます。大人が社会生活を送るにあたり「自分の言動に責任をもち、他の人に迷惑をかけずによりよい行動ができること」が求められます。小学校よりも中学校、中学校よりも高校の方が、「自分の言動に責任をもち、他の人に迷惑をかけずによりよい行動ができること」を求められます。学校はいわば実社会に出るための素地づくりの場所と言えるでしょう。

そのような素地をつくるために中学校では、教科の学習が小学校より勉強の質だけでなく量も多くなります。また、子どもに任せる取組も増えます。生徒会活動や部活動など、生徒の責任を基本に行動する取組が増えます。これらのすべての取組は、子どもたちの3年後の可能性を見据えての意図的・計画的な営みです。ぜひ、これからの中学校生活が、自らの可能性を掴むのではなく、可能性を伸ばす時間になることを願っています。

「今は未来のためにある」 お子様たちの成功と幸せを願います。1年間よろしく願いいたします。

せいとかい うんどう 生徒会による「あいさつ運動」



うえ しゃしん せいとかい あさ うんどう おこな ようす
上の写真は、生徒会のメンバーが、朝に「あいさつ運動」を行っている様子です。4月21日からの
しゅう せいかついいんかい せいとかいしゅうぶ みな せいもん うらもんふきん せいかつ うんどう おこな
週、生活委員会と生徒会執行部の皆さんが、正門、裏門付近に整列し、「あいさつ運動」を行っ
ています。

「あいさつ」とは、ひと ところ ところ ことだま どうさ い ひと ひと かか さい
は、必ず言葉や身振りで「互いに相手の存在を認める」ことから始まります。人は関りをもって生き
ていく存在です。「あいさつ」は自分と相手との 関りを生み出し、生活をより豊かなものにしてくれま
す。いわば、「あいさつ日本一」を目指すことは「コミュニケーション能力日本一」につながり、さまざま
みらい せいこう とりくみ
未来の成功につながる取組です。

「あいさつ」はおや きょうし しつけ おし おお ひと かん
係を築くことができるという自分自身の可能性を広げるものです。ぜひ、自分自身の未来のために
も自分の「あいさつ」を振り返り、よりよいものにしていければよいと願っています。

たちば ひと そだ 立場が人を育てる

A:「あいさつ運動をして、気持ちよく一日を始められました。」

B:「今日から生活委員の挨拶運動に執行部も参加するので朝早いけど頑張ります!」

うえ ぶんしょう まいにち たんまつ つか おこな ところ けんこうかんさつ らん
上の2つの文章は、毎日、タブレット端末を使って行っている「心の健康観察」のコメント欄
に、2・3年生の生徒が記入した昨日のコメントです。文章から、A の生徒は「委員会の仕事に
まえむ と く うかが せいと ぶんしょう せいと いいんかい しごと
前向きに取り組んでいること」が窺えます。また、B の生徒は「自分の仕事・役割に責任をも
と く うかが
て取り組んでいること」が窺えます。

このような経験を通して、また、その経験をどのように感じるかで、生徒たちは自らの可能
性を広げていくのだと思います。「立場が人を育てる」と言いますが、まさに、生徒たちは日々
のさまざまな経験を通して成長しているのだと思います。本通信の表側に記載していますが、
がっこう じっしやかい で そじ きかん ほんつうしん おもてがわ きさい
学校は実社会に出るための素地づくりの期間です。ぜひ、いろいろなことに挑戦し、さまざま
けいけん つ おも
経験を積んでほしいと思います。